

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(12/05)

文・写真：武田、写真：倉谷、山 國

日 時：2019(令和元)年 12 月 5 日(木) 9:30～15:30

気 象：晴れ→薄曇、気温 2℃

活動エリア：4 5 林班ろ-0 3

活動内容：林床整備(倒し放し間伐木・倒木・枯損木・落枝の処理)過密広葉樹の除伐、作業道補修

参加者：泉家恵子、石原順子、内海宏一、斧田一陽、小櫃徹夫、越野雅美、工藤貴志、倉谷邦雄、
武田壽夫、豊田哲也、中村賢三、宮本 廣、山田真也、山 國 計 14 名

<気温は今冬最低を記録、参加者は木曜日の最多を記録>

今日は「納めの水天宮」、除災招福の靈験あらたかだそうで、こうして歳は押詰まり気温も下る。山は 2℃。高い尾根に遮られて日照も届かないのが恨めしい。ただ風が無いのは大助かり。引き続き「4 5 林班ろ-0 3」の谷に向う。位置は前回の北、モニタリング調査区③の下方、倒し放した間伐木などを棚積みして土留めを作るなど、整備区域の拡張を目指す。

<今日の成果>

夏～秋の作業地「4 4 林班ろ」の尾根は棚積みを支える立木が無いのに苦労したが、ここは適度な間隔で間伐されている。その刈り倒された間伐木などを切り揃え、棚積みするのがメイン。運搬の力仕事はともかく、斜面が見通せることもあって、作業はスムーズ。とは言え、斜面移動や足場確保の難行に変わりはない。チェーンソーのお蔭もあり三班で 1ha 整備。枯損木も伐倒したが、蔓で絡められていたり、枝が挟まったりでうまくいかない。4 本中 1 本は危険マークの赤テープ巻きで勘弁願う。開削した作業道も一年経つと随分えぐれや流土の堆積が目立つ。200m に鍬を入れ、これで足下の安全を確保。

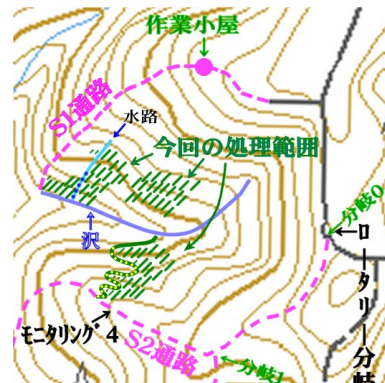
<本山寺の新春行事>

『新春の初寅の大祭(1 月 3 日)の折には、法螺貝が山々に響き渡る中、護摩が焚かれ、白装束に頭襟、錫杖姿の修験者たちの立ち居振舞いが山岳仏教独特の雰囲気演出します(高槻市 HP)』。写真をご参照。山で見付けた植物は「カモジゴケ」、古事記を彷彿とさせる由来あり。

【集合写真】



【活動場所要図】



【以前 整備した作業道を下る】



【路肩補強材を追加した作業道】



【昔 築かれた護岸も倒木・落枝で埋る】



【片付け残していた水路の倒木を「お片付け」】



【力仕事三景の①：枯損木伐倒中】



【三景の②：玉切り材の運搬】



【三景の③：支点となる根方へ引き動かす】



【作業開始時の斜面・奥に切倒し木が重なる】



【カモジゴケ(髭苔) 天鈿女命の髪飾り？】



(天の岩戸では似た蔓草を頭飾りに踊った？)

【上の作業後-写真の奥がスッキリした】



【昨年の初寅会①】



【山伏問答】

